

US GTC 研究部会

「乳房構成判定と GTC 判定の乳房超音波検査におけるルーチン化」 座長のことば

座長:中島 一毅(川崎医科大学総合医療センター 外科・川崎医科大学 総合外科学)

:植松 孝悦(静岡がんセンター 乳腺画像診断科)

乳癌のリスクは、乳管や小葉の量と関連しています。

マンモグラフィはこれらの構造を含む乳腺実質を高濃度領域として描出し、

乳癌リスクの重要な指標とされています。

一方で、乳房超音波は乳管や小葉をより直接的に描出(Glandular Tissue Component:GTC)し、マンモグラフィよりも正確かつ詳細に乳癌の発症リスクを予測/評価することが可能になります。

また、最近の研究により、乳房超音波画像を用いて

マンモグラフィの乳房構成を判定する新しい方法が開発されました。

この進歩により、乳がん超音波検診の際に個々の患者に最適な検査方法を提案することが可能になり、

乳がん検診のパーソナライズが進むことで、より効果的なリスク管理と早期発見が期待されます。

この技術は、乳がん検診の精度を向上させ、個別化医療への一歩となる重要な進展です。

このセッションでは、乳房超音波検査における最新の進歩として、

GTC 評価と乳房構成判定の技術を紹介します。

これらの技術は検診/臨床現場での判定/診断に役立ち、

乳房超音波検査の標準的な手順としての普及と理解を深めることを目的としています。